



地域包括医療・ケアの更なる推進に向けて

「第 22 回熊本県国保地域医療学会」を開催 24 題の研究発表、ワークショップを実施

平成 29 年 10 月 28 日（土）に熊本テルサにおいて開催し、熊本県内の国民健康保険診療施設や市町村などから約 330 人が参加した。主催は熊本県国保直診施設協議会・熊本県市町村保健師協議会・熊本県国民健康保険団体連合会。

森崎哲朗学会長（国保八代市立病院長）の開会挨拶、坂本不出夫熊本県国診協会長（国保水俣市立総合医療センター事業管理者）の主催者挨拶に続き、熊本県の田原牧人健康局長に来賓挨拶をいただいた。

次に、第 21 回学会（昨年 10 月開催）における研究発表優秀者表彰式を行い、森崎学会長から受賞者に表彰状が手渡された。受賞者を代表して最優秀賞の阿蘇市ほけん課保健師の蔵原眞由美氏が受賞の弁を述べた。

引き続き、研究発表に移り、「臨床に関するもの」「保健事業に関するもの」「看護に関するもの」「リハビリ、ターミナルケアに関するもの」「職員の資質向上、IT 利用、連携に関するもの」の 5 演題に分かれて、国保直診施設（19 題）と市町村（5 題）合わせて 24 題の発表があった。



その後、森崎学会長の進行でワークショップを行った。ワークショップは、本学会を地域における医療と保健・介護・福祉の多職種連携に焦点を当て、地域の現状等の報告及び意見交換の場にするを目的に、昨年の第 21 回学会で初めて開催した。2 回目となる今回は「地域実情を踏まえた地域包括ケアの推進について」をテーマとした。初めに山都町包括医療センターそよう病院と小国公立病院、球磨郡公立多良木病院企業団及び各地域の関連施設から、それぞれの地域における包括ケアの現状と課題等について発表があった。その後、会場の参加者も交えて活発に質疑応答や意見交換が行われた。



最後に、松村玲子副学会長（熊本県市町村保健師協議会長）が閉会の辞を述べて閉会した。

全プログラム終了後に、研究発表最優秀者等の選定が各演題の座長、審査員を含む本学会運営委員により行われ、以下の5人が選ばれた。受賞者の表彰式は来年10月に開催予定の第23回学会で行う予定であり、さらに、最優秀者には来年10月に徳島県で開催予定の第58回全国国保地域医療学会で発表していただく予定である。

【研究発表最優秀者】

- 国保水俣市立総合医療センター 人工透析センター 看護師 溝上より子氏
「透析患者における血清リン・補正カルシウム値管理の適正化を目指して
～オリジナルツールを使用し個別指導を行って～」

（演題分類 C 看護に関するもの）

（溝上氏の発表は、慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常は血管石灰化を介して生命予後に影響を及ぼすため、ガイドラインに沿って血清リン値・補正カルシウム値を管理目標値内に保つことが必要であることから、オリジナルツールを使用して患者自身が各値の管理目標値を目指した食事や服薬の自己管理行動につながるかを研究したもの。

審査では、視覚に訴えるツールを考案し、患者のやる気を起こして、薬剤減量という結果が出ていることが評価された。）

【研究発表優秀者】

- 上天草市立上天草総合病院 医師 和田正文氏
「上天草総合病院における日本紅斑熱の標準治療」

（演題分類 A 臨床に関するもの）

- 和水町役場 税務住民課 事務職 石井舟氏
「保健事業実施における成果と今後の課題
～国民健康保険事業の安定化を目指す～」

（演題分類 B 保健事業に関するもの）

- 国保水俣市立総合医療センター 東4病棟 看護師 井川友里江氏
「看取りのケアマネジメントシートを用いたカンファレンスの効果」

（演題分類 D リハビリ、ターミナルケアに関するもの）

- 国保水俣市立総合医療センター 診療技術部放射線技術科
診療放射線技師 山澤順一氏
「『くまもとメディカルネットワーク』の利活用推進に関する検討
～医療文書の電子的送受信とオンライン画像連携について～」

（演題分類 E 職員の資質向上、IT利用、連携に関するもの）